

	申請団体名	本拠地	事業名称	事業概要
1	認定特定非営利活動法人 長崎OMURA室内合奏団	対馬市	文化芸術による長崎県離島の子ども達育成事業	離島・過疎地域では本物の文化芸術に触れる機会が著しく少ないため、子ども達に対して県内在住のプロ指導者のレッスンを提供する機会を確保することにより、子ども達がハイレベルの文化芸術を学ぶことができる教育プログラムを実践する。単なる体験機会の提供に止まることがないよう、同時に地域の指導者を育てるための指導者育成プログラムや子ども達が自ら楽器等のメンテナンスが出来る基礎的な支援を行いながら、いつでも技術的な課題を相談し指導が受けられる体制を整備していく。この教育プログラムを地域の全ての子ども達が享受できるようにするため、交通事業者等と連携し、それぞれの地域の実情に合った子ども達の送迎システムを構築する。この取組により離島・過疎地域の子ども達が都市部と同程度の経済的負担で、自分の興味関心がある分野について地域の継続した指導を受けることにより子ども達の自己肯定感が向上し、人格形成に好影響をもたらすことを目指す。初年度は、実証的に対馬市で吹奏楽分野での事業構築に着手し、他地域や美術・ダンスなど他分野での事業構築につなげ、県内に広く展開する。
2	一般社団法人高島活性化 コンベンション協会ESPO	佐世保市	地域間交流・共生によるふるさと高島の 課題解決事業	九十九島の数少ない有人島であり水産業が主な産業である人口160人程の佐世保市高島町において、高齢化、人口減少、空家増加、産業不足、主要産業（漁業）の継続難、交通及びインフラの離島課題、若者の流出なども複合的に入り混じっており、一つの課題を検討する上で包括的に課題解決の検討が必要な地域である。他の離島に当たり前にあるモノさえも整っておらず、情報インフラの整備などの行政案件もさることながら、子どもの送迎や給食などの食材の物流なども含め様々な課題案件について島民や島内企業の自助努力にて対応しているが、負担も大きく自助すると同時に故郷を想う誇りと心をすり減らし、子ども達は如実にその影響を受けている。高島の歴史と文化の一つにアートや音楽があり、潮風バンドと言う名で50年ほど前から地域の色として存在しているが、現在では、指導者不足や環境不足で子ども達がピアノや美術などの文化を学ぶ機会がない状況になっている。全てにおける根幹的な課題の一つであり、課題解決の重要な要素でもある交流や繋がりが非常に脆弱であり地域間連携や共生というところが高島の弱点と言える。自発的に島民が自分のふるさとを守り、ふるさとを育てる意識と行動を前提としながら、積極的に島外への関係人口を増やし、課題打開施策の検討を含めて外部の力を借りながら迅速に実行する必要性がこの高島にとって何よりも重要であると考える。同学区及び同地域の子どもやその家族が高島を知り交流し、県外を含む島外の子ども達が離島体験や離島留学などで来島した際の学ぶ場所づくりに繋げ、高島にいて相互に学べ交流ができる形を構築するためにフェリーがない時間帯などは、漁船を活用し移動支援を行い保護者の負担を減らし興味関心がある習い事などに通える環境を整えたい。
3	大村湾子ども支援協議会	時津町	子ども達のいじめ、孤立化を防ぎ将来に 希望を与える事業	1. 海は天からの贈り物です。子ども達に海岸清掃を通じて漂着ゴミの分類、その社会的背景、SDGsの基本を教育していきます。またグループで行うことで一体感、助け合いの精神を学ばせます。仲間意識が芽生え、いじめの解消に期待できます。後日大村湾クルーズを行い、海岸で見た景色と海から見た効果を実感させます。 2. 大村湾特産のナマコの放流実験を行います。大村湾漁協が管理する沿岸地区で指導員を配置し、その都度磯のいきもの説明を行います。 3. 長崎県水産部に漁業の規則について講演をお願いします。なんでもかんでもとってはだめ（TAC/TAE制度による漁獲制限）、磯の貝類、あわび、さざえを勝手に採ってはだめ（漁業行使用権）、なまこを勝手に採らない（水産流通適正化法）など。 4. 水産に関するいろんな逸話を話します。養殖鯛は鼻の穴が繋がっているが天然鯛は繋がっていない。鯛を運搬するときは針で仮眠状態にして運搬する。がぶとがには古生代の化石である。ウナギの養魚はマリアナ海溝で育つ。秋田の季節魚ははたはたで、産卵期は海面で渦巻く。まぐろ、はまちは熟成した方が美味しいが、ヒラメなどの白物は早く食べた方がいい。でまわらない魚五島の箱河豚。